親元就農①　林原　正之さん（３１歳）

～引き継いだ経営のさらなる発展を目指して～

＜プロフィール＞

●出 身 地：西伯郡大山町岡（旧中山町）
●就 農 地：大山町
●就農品目：春・秋冬ブロッコリー、水稲
●就農時期：平成 28 年 10 月（29 歳）
●家族構成：両親、祖母、妻、子（１才）
●前　　職：東亜青果株式会社（米子市）

＜現在までの道のり＞

平成 22 年大学（環境人間学部）を卒業し、東亜青果株式会社に入社
平成 28 年 3 月　東亜青果株式会社を退職
平成 28 年 6 月～9 月　農大にて公共職業訓練「アグリチャレンジ科」を受講
平成 29 年 10 月　親元就農

＜活用した研修＞

●公共職業訓練「アグリチャレンジ科」（平成 28 年 6 月 7 日～9 月 16 日）

アグリチャレンジ科の訓練内容において、機械操作の基礎が学べるという点が私にとっては一番の魅力でした。アグリチャレンジ科に入るまでは、手伝いでトラクターを操作した程度だったので、農大で基礎が学べたことは本当に良かったと思います。ただし、農大の圃場条件は恵まれているので、さまざまな条件のある現場での作業には、今も戸惑ってばかりです。

また、アグリチャレンジ科を受講した約４ヶ月間は、私にとって、退職してから就農するまでの慣らし　期間として良かったと思っています。同じ志を持つ仲間が出来たことや、農家実習で我が家と違う経営を知ることができたことは、とても大きな刺激になりました。

１　就農の動機

大学在学中の前半まで、家のことや田舎に帰ることなど考えたことは無く、サラリーマンとしてやっていくことを漠然と考えていました。ただ、いつも頭にあったのは、専業農家を営む親の姿でした。

大学３年生の時、法要で帰省した際、親戚から「長男でもあり、帰って来い」とはっきり言われたことから、鳥取での就職を考えるようになりました。

両親は、農業を継ぐことや、田舎に帰って就職することを決して強制しませんでしたが、本心は親戚の言葉のとおりだと自分なりに察知していたので、その後、鳥取に戻り就職することを決めました。

就職先としては、将来の農業に活かせる場所が良いと考え、青果会社を選び、入社後は仕入れ・販売・経理を一通り担当し、この経験が現在の経営に大いに役立っています。

入社当初から、父の年齢が６０歳を越える頃に退職し、父の跡を継ぐ準備を始める決意を固めていました。

２　就農準備

①家族の同意

就農については、会社員時代から、両親と何度も話をしてきました。母は就農に反対していましたが、父からは、幾度となく私の就農への「本気度」の確認と念押しがあり、本当にやるなら応援すると言ってくれました。

妻は一緒に農業はしませんが、私が父の跡を継いで農業をすることについては理解してくれました。

②就農に向けた情報収集

父はこれまでに多くの就農希望者の研修を受け入れており、私が会社を辞める頃には、担い手育成機構

のアグリスタート研修生が研修されていました。この研修生は、農大のアグリチャレンジ科も修了されており、様々な研修の内容について教えていただきました。

また、父のすすめで、担い手育成機構や大山町、大山普及所との就農に向けた相談を重ねる中、親元就農に対する支援があることを知り、農業の基礎を知り仲間を得ることができるアグリチャレンジ科の受講をすすめていただくなど、様々な情報・助言をいただきました。

④就農時に活用した支援

アグリチャレンジ科修了後、平成２８年１０月に親元就農しました。父が認定農業者で「親元就農交付金」を受ける形での就農でした。

４　経営理念

●産地と共に発展していける農家を目指す

自分だけが儲かったり、良くなったりするのでは無く、産地全体が発展して初めて稼ぐことができるということを忘れない。

（父が実践している考え方を受け継いでいる。）

５　就農しての感想

＜苦労していること＞

〇性格上、作業を残して終わることが出来ない。結果的に、休みが取れず体調を崩すことがあり、特に夏場の作業が体力的にきつい。

〇作業が後手にまわることがあり、本来しなくてもよい作業（除草など）が増えてしまう。

〇天気との勝負で、作業計画が立てづらい。

＜良かったこと＞

〇サラリーマン時代と違ってストレスが無い。失敗しても全て自分の責任で人のせいにしなくてすむ。

〇自分の判断で実行できる。

〇種をまいて芽が出て、良いものが出来て高価格で売れることのおもしろさを実感。

〇自分の就農で、多少なりとも両親が楽になったこと。

＜工夫していること＞

〇仕事が前に進んでいくように常に考えている。

〇作業をマニュアル化して、パートの方にも理解いただけるよう資料として残している。

６　これからの経営目標

今年、近隣の農家から農地を使ってくれないかと相談され、秋冬ブロッコリーの作付面積を増やしましたが、良い条件の農地は限られており、人員的にも大幅な規模拡大は当面考えていません。現状の人数でやれることをしっかり実践し、高品質なものをきちんと作れるようになった上で、可能な範囲で規模拡大を考えていきたいです。

親元就農時、家族経営協定を締結しており、３年以内に経営継承することを目指していましたが、平成３１年７月にはいよいよ継承することとなりました。さらに、継承にあわせて法人化する予定です。今後は社長として、会社の経営発展をどこまでも追及していきたいと思います。

７　就農を希望する方へのアドバイス

自分は親元就農ですが、新規に就農するハードルは相当高いので、真剣に考えて向かっていただくのがよいと思います。特に、経営試算をあらかじめしっかり行っておくことは重要です。

産地では、栽培方法から販売の仕組みまで、しっかり確立されています。自分の力だけでなく、産地のブランド力があるからこそ経営していけるということを忘れないでください。